

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科) (2017.12) 平成29年度:39-40.

統合失調症を有する長期入院患者への意欲を高める看護介入の検討

佐藤 愛美理, 高山 幸佳, 林 薫子

統合失調症を有する長期入院患者への 意欲を高める看護介入の検討

佐藤 愛美理 高山 幸佳 林 薫子
(指導：長谷川 博亮 石川 千恵)

緒言

わが国では、平成 26 年の厚生労働省「患者調査」によると、いまだ入院をしている精神障害者は約 31 万人おり、そのうち 6 割の患者が統合失調症患者である¹⁾。平成 16 年厚生労働省精神保健福祉対策本部が提示した「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では、入院医療中心から地域生活中心へという方策が推し進められた²⁾。しかし、患者の退院の意欲への介入についての政策は挙げられていなかった。その後、平成 26 年の厚生労働省の「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会」にて退院に向けた意欲の喚起が具体策として示されており³⁾、患者の意欲に焦点が置かれた。

先行研究においても、意欲の低下がみられる患者に対して、看護師が諦めずに関わることなど看護のかかわりは大きいと示している⁴⁾。しかし、具体的な意欲向上への看護介入の実際は明らかにされていない。意欲の向上により、患者の主体性の向上、再入院の防止、QOL の高い生活につながる。

そこで本研究では、統合失調症を有する長期入院患者の意欲に働きかける看護介入の現状を明らかにする。その結果にもとづき、長期入院患者の意欲を高める効果的な看護介入について考察する。

用語の定義

長期入院：入院期間が1年以上で精神症状が安定せず、セルフケア能力が低下している患者とする。

方法

1. 研究デザイン：質的研究

2. 研究対象者：X 病院に勤務する精神科病棟で統合失調症を有する長期入院患者をチームナーシングで受け持った経験があり、看護介入を行った勤務経験が 4～10 年の看護師 3 名を対象者とした。

3. 調査方法：半構造化面接法で行った。協力を得られた対象者にプライバシーの保てる部屋で 1 人 1 回の面接を行った。同意は書面で得た。面接時間は 30 分程度とした。面接は同意のもと IC レコーダーを使用した。なお、調査は平成 29 年 10 月中に行った。

4. 調査内容：インタビューガイドに沿って行った。インタビュー項目は、1) 長期入院患者の受け持ち時の困難なこと、2) 患者の意欲をどのように捉えているか、3) 意欲を高めるための看護介入時の困難および意識していること、4) 看護介入による効果の有無とその理由、の 4 項目とした。

5. データ分析方法 Berelson (1957) の内容分析⁵⁾の

手法を用い、以下の手順で分析した。

(1) 意欲を高めるための看護介入に関する記述を文脈ごと抜き書きし、(2) 1 つの記述内容ごとに記録単位に分割した。(3) 記録単位を内容の共通性に従ってサブカテゴリ、カテゴリへと集約し、(4) 各サブカテゴリ、カテゴリごとの記録単位数を算出した。結果の信頼性を高めるため、これらについては統一した見解が得られるまで研究者間で協議を重ねた。分析過程では、質的研究経験者であり、精神看護学を専門にしている研究責任者にスーパービジョンを受けた。

6. 倫理的配慮

旭川医科大学倫理委員会の承認を得たのち実施した。(承認番号:17073)。研究対象者に本研究の目的や意義、方法、研究協力の自由意思と拒否権、同意の拒否による不利益はないこと、研究に関する情報提供、個人情報取り扱い、研究終了後の破棄、倫理的配慮、について文書と口頭で説明した。

その後書面にて研究の同意を得た。

結果

234 のコードを抽出し、本研究の内容にそぐわない 16 のコードを除いた 218 のコードから 17 のサブカテゴリ、3 のカテゴリを抽出した。(図 1 参照) 以下、カテゴリを【 】、サブカテゴリは〈 〉で示す。

カテゴリは【長期入院患者の特徴】【看護師に生じるマイナス感情】【患者と繋がる取り組み】の 3 つに分類された。

【長期入院患者の特徴】のサブカテゴリは、〈患者の症状による影響がある〉〈患者の理解力がない〉〈看護師や病院に対する依存〉〈個別的な障壁がある〉〈家族の思い〉〈家族の協力〉の計 6 個から成り立った。

【看護師に生じるマイナス感情】は、〈不安〉〈困難感〉〈正解がわからない〉の計 3 個から成り立った。

【患者と繋がる取り組み】は、〈患者と共に活動する〉〈生活行動に働きかける〉〈目標を設定する〉〈患者側の視点に立つ〉〈患者-看護師間の信頼関係の構築〉〈意欲への働きかけ〉〈病棟スタッフと連携する〉〈多職種と連携する〉の計 8 個から成り立った。

考察

1. 意欲を高める看護介入の現状

1) 【長期入院患者の特徴】：先行研究において、統合失調症を有する患者は、症状が不安定、セルフケア不足、活動意欲の低下等の患者要因により、入院が長期化している⁶⁾と指摘されている。本研究においても、〈患者の症状による影響がある〉〈患者の理解力

がない」という意欲低下に繋がる患者要因が明らかとなった。セルフケア不足により、患者自身が自立して行えず、看護師の介入が必要になっていると考える。そのため、看護師によるケアや病院環境に慣れてしまい、活動意欲が低下することに繋がっていると考えられる。〈看護師や病院に対する依存〉という結果からもうかがえる。また、〈家族の思い〉〈家族の協力〉という結果が得られ、家族の受け入れ体制が必要であることが明らかになった。家族の受け入れ体制は患者の入院を長期化させる要因となっている⁶⁾。更に、患者には〈個別的な障壁がある〉という結果が出ており、長期入院患者が将来の生活のために主体性を持って生きることが困難であると考えられる。

2)【看護師に生じるマイナス感情】:〈不安〉〈困難感〉〈正解がわからない〉という結果が得られた。この結果から、看護師は意欲向上への介入を行う際にマイナス感情が表出していることが明らかになった。これらの感情は、『口調がきつくなる』『感情が表情に現れる』『患者とのかかわりを避ける』というように看護介入に影響する⁷⁾。マイナス感情により患者に対する態度や行動、看護介入に影響を及ぼす可能性がある。

3)【患者と繋がる取り組み】:〈患者と共に活動する〉という結果が得られ、患者自身で行えることを増やしていき、意欲向上に繋げた取り組みを行っていた。患者を含めた看護実践を行い、相互に働きかけ、評価することが必要であると示唆された。また、〈生活行動に働きかける〉〈目標を設定する〉〈意欲向上への働きかけ〉が結果として挙げられ、看護師は患者の意欲に直接的に働きかける介入を行っていることが明らかとなった。これらの中でも、〈生活行動に働きかける〉が多く挙げられた。日常生活行動は看護師自身が介入として取り組みやすく、人間の欲求として必要不可欠であるため、患者の意欲向上にもつながりやすいと考えられる。質の高い看護を提供するには患者とよりよい信頼関係を築き、発展させる⁵⁾必要がある。本研究においても、〈患者の視点に立つ〉〈患者-看護師間の信頼関係の構築〉が挙げられた。患者を中心とし、より深く患者を理解するためのコミュニケーションを図ることが重要であると考えられる。そのためには、〈多職種との連携〉〈病棟スタッフの連携〉が欠かせないことが明らかになった。連携を取る際には、患者との繋がりを持ちながら行うことが重要であると考えられる。

2. 意欲を高める効果的な看護介入

本研究の結果から、効果的な看護介入において「連携」がキーワードになってくると考える。

患者の現状として、看護師や病院に対する依存がみられていること・個別的な障壁があることが明らかになった。そのため、短期的な関わりでは意欲向上に繋がりにくく、アウトカムが評価しにくい現状である。長期的な関わりが必要であり、そのためには患者-看護師間が連携し、信頼関係を構築していくことが重要であると考えられる。患者の視点に立ち、個別的な障壁や患者の目標が何であるかを理解していくことで

信頼関係を構築し、生活行動への働きかけや目標設定等への介入に可能となる。しかし、看護師は患者や看護介入に対してマイナス感情を抱えており、双方が影響を受けやすい。影響が生じる前に、看護師は自身の気持ちに向き合い、マイナス感情を軽減できるように努める必要があると考えられる。病棟で看護師が不安や困難感を表出する場を設け、多職種との協力が必要不可欠であると考えられる。多職種と連携を取ることで、幅広い視野で患者を捉えることが可能になり、より患者の意欲向上に繋がる介入が行える。また、家族の協力も患者の意欲向上のきっかけを作るために必要不可欠である。そのため、患者の家族とも連携を図っていくことが必要であると考えられる。

以上から、常に患者と繋がりを持った連携を図っていくことが、長期入院患者の意欲を高める効果的な看護介入において必要であると示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただきました X 病院の看護師の皆さまに心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 厚生労働省:平成 26 年「患者調査」
- 厚生労働省:精神保健医療福祉の改革ビジョン
<http://www.mhlw.go.jp/kokoro/nation/vision.html> 2017.11.21 閲覧
- 厚生労働省:長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策の今後の方向性.<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokuyokushougai/hoken/fukushibu-Kikakuka/0000051138.pdf> 2017.11.9 閲覧
- 藤川和恵・湊由季子・井上雄二,他(1991):退院への意欲を引き出す諦めないかかわり 長期入院患者に対する退院支援,第 21 回日本精神科看護学術集会 専門 I, 17 群 65 席, 321-325.
- 船島なをみ:質的研究への挑戦,第 2 版,医学書院,2007.
- 島稔・西谷恭子・長山豊,他(2010):急性期統合失調症入院患者の長期入院に関わる要因—退院準備度評価尺度(DRI)を用いた評価—,第 40 回日本看護学会論文集精神看護,日本看護協会, 113-115.
- 藤澤慎・押田達也・大森美加:精神療養病棟におけるスタッフのストレス実態調査,第 41 回日本精神科看護学術集会 第 16 群 79 席,176-177.

図 1. 統合失調症を有する長期入院患者への意欲を高める看護介入時の現状

カテゴリー	サブカテゴリー
長期入院患者の特徴	患者の症状による影響がある
	患者の理解力がない
	看護師や病院に対する依存
	個別的な障壁がある
	家族の思い 家族の協力
看護師に生じる マイナス感情	不安
	困難感
	正解がわからない
患者と繋がる取り組み	患者と共に活動する
	生活行動に働きかける
	目標設定をする
	患者側の視点に立つ
	患者-看護師間の信頼関係の構築
	病棟スタッフの連携 多職種との連携 意欲向上への働きかけ